

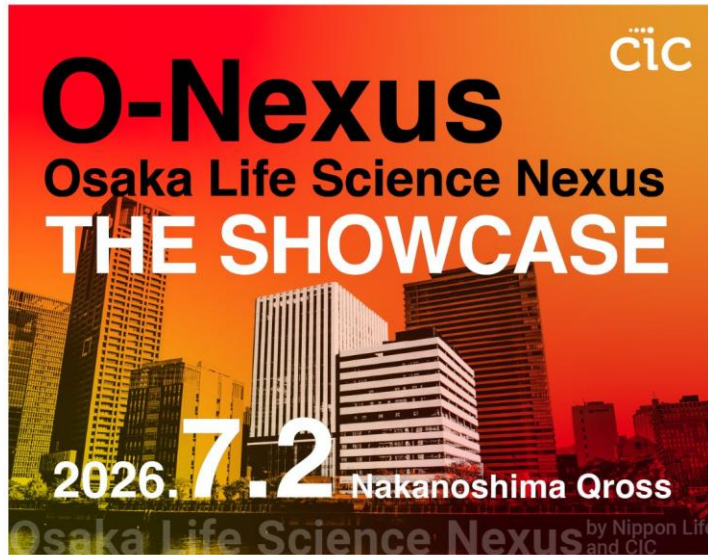


CIC Japan 合同会社

報道関係各位

**関西と世界をつなぐイノベーションハブ「O-Nexus」が本格始動
「O-Nexus : Osaka Life Science Nexus - THE SHOWCASE -」を開催
産学官のトップリーダーやグローバル・プレイヤーが集結
大阪市長が英語でスピーチ**

CIC Japan（本社：東京都港区虎ノ門、CEO：デニス・メドレンカ）は、2026年7月2日（木）、大阪・中之島の未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross（中之島クロス）」内の「Osaka Life Science Nexus（以下、O-Nexus）」にて、イベント「O-Nexus : Osaka Life Science Nexus - THE SHOWCASE -」を開催しました。



当日は、行政・ヘルスケア事業者・大学・投資家・スタートアップ・大企業など、国内外のライフサイエンス領域を牽引する参加者が集結。グローバル・プレイヤーの参画を広く発信するとともに、O-Nexusが関西と世界をリアルにつなぎ、新たな連携やビジネス機会、価値創出を生み出す拠点としての役割を国内外へ発信する場となりました。

イベントの冒頭では、一般財団法人未来医療推進機構 理事長 澤 芳樹氏より開会挨拶が行われ、大阪市長 横山 英幸氏より英語にて乾杯のスピーチをいただきました。

■一般財団法人未来医療推進機構 理事長 澤 芳樹氏 ご挨拶

「本日は多くの方にお集まりいただき、O-Nexusへの期待の大きさを感じています。Nakanoshima Qrossがスタートして2年、日本生命様がしっかり形作って下さる中でCIC様が運営されるこの拠点は、まさに『最強のコンビネーション』です。私が大切だと考える『教育』『スタートアップのインキュベーション』、そして最終的にそこへ繋がる『ファンディング』の仕掛けを、ビジネスライクかつグローバルな視点で皆さまと共にここから実現し、素晴らしいビジネスがワイワイガヤガヤと楽しく起こっていくことを心より祈念しております。」



■大阪市長 横山 英幸氏 乾杯のスピーチ

「大阪・関西は、優れたビジネス環境、豊かな文化、そして京都・奈良・神戸へのアクセスの良さを兼ね備え、長きにわたりイノベーションの都市であり続けてきました。日本生命とCICのパートナーシップを通じて、私たちは大阪と世界をつなぐ重要な一歩を踏み出します。O-Nexusが、世界中の人々の暮らしを向上させる新たなアイデア、新たなパートナーシップ、そして新たなブレークスルーの架け橋となり、この地で形になっていくことを心より楽しみにしています。」



■Session 1：「世界とつながる関西ライフサイエンス・エコシステム」

続いて行われたセッションでは、京都大学成長戦略本部の鈴木 忍氏、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 小池 晴彦氏、アストラゼネカ株式会社 劉 雷氏が登壇し、CIC Catalyst APAC 加々美 綾乃のモデレーションのもと意見が交わされました。大学・研究機関・企業・行政による共創の可能性や、「なぜ関西なのか」をテーマに、この地域ならではの強みとグローバルにつながる未来像について議論されました。



(左から順に加々美、小池氏)



(左から順に劉氏、鈴木氏)

京都大学成長戦略本部 鈴木 忍氏

「関西には京大・阪大をはじめ世界トップクラスの基礎研究があり、薬の街としての非常に古い歴史、大企業が集積する強みがあります。ここ数年でみんなでエコシステムを考える状況が非常に活発になってきました。大学としても研究力を上げるための経済基盤をしっかりと作り、大学もちゃんとこのエコシステムに入っていけるような体制を皆さんと一緒に作っていきたいと考えております。」

アストラゼネカ株式会社 劉 雷氏

「澤先生のお話にもありましたが、元々（関西には）地力があるアカデミアのシーズがあり、そこに『箱』というものが出来上がって人が集まるようになりました。ここからさらにお金が循環するような、ビジネスが綺麗に回っていくステップが上がってきているなど感じています。我が社としてもその次のステップへよりコミットしていきたいです。」

公益財団法人神戸医療産業都市推進機構 小池 晴彦氏

「神戸の中の企業やスタートアップの皆さまと日々伴走しています。その中で特に『資金調達』に深く注目しており、投資や支援を通じて日本のスタートアップがグローバルに成長できる活動をサポートしていきます。」

■ Session 2 : 「グローバル・イノベーションへのゲートウェイ」

後半では、President, CIC Campuses and Labs ミシェル・オティー、Managing Director, CIC Berlin ティモン・ルップが登壇し、Global Partner, CIC Catalyst APAC 槌屋 詩野がモデレーターを務めるトークセッションを実施しました。O-Nexus が世界の主要イノベーション都市とどのようにつながり、そこからどんな機会が生まれるのかについて語られました。



(左から順にルップ、オティー)



(槌屋)

President, Campuses and Labs at CIC ミシェル・オティー

「CIC は単なるスペースの提供者ではなく、イノベーションそしてグローバルエコシステムへの入口です。フィラデルフィアのラボ拠点ではスタートアップが限られた資金をより長く活用し、低リスクで研究開発を続けられるための研究ラボ環境を備えており、CICのラボ設備を利用することで初期投資を抑えたスタートアップが運転資金を3年から5年に延ばし研究開発に注力できた例のように、参入障壁を下げて企業の成長を加速させます。O-Nexusの入居企業の皆さまも、CICを最大限に活用してください。」

Managing Director, CIC Berlin ティモン・ルッフ

「ベルリンではインフラを整え、政府を巻き込んで法整備を促すことで、3人で始めた遠隔操作のスタートアップを米国で成功を収める企業へと成長させました。また、私たちが大切にしているのは、すべてが偶然に見えても実は意図的にデザインされた『ポジティブな衝突』だということです。実際に、航空宇宙分野の朝食会での出会いから始まったプロジェクトが水素ドローンとVRシミュレーターを組み合わせる技術に発展し、最終的には日本・横浜港での実証実験プログラムにまでつながりました。こうした意図的な偶然の連鎖を通じて、ベルリンと O-Nexus、そして日本をつないでいきます。」

O-Nexus は、本イベントを本格始動の節目として、大阪から全国、そしてグローバルへとつながるイノベーション創出を加速してまいります。関西の強みであるライフサイエンス分野のポテンシャルを世界に向けて発信する「ゲートウェイ」として、今後も様々なプログラムやイベントを通じたコミュニティ形成を推進してまいります。

O-Nexus コンセプト

Osaka Life Science Nexus by Nippon Life and CIC (O-Nexus) は、ライフサイエンスを軸に、人々の健康寿命の延伸に貢献する技術・サービス・知恵が集い、社会へと実装されていくための拠点です。大阪・中之島は、古くは江戸幕末の適塾創始者である緒方洪庵先生による西洋医学の普及にはじまり、近代以降、日本経済の急成長の一角として、金融、研究、医療、学術といった社会基盤機能が集積し、産業や技術を社会へとつなぐ役割を担ってきたエリアです。研究開発やものづくりの現場を支え、意思決定と知が交差する場として、日本の近代化と産業の発展を下支えしてきました。

O-Nexus は、この中之島が培ってきた「人・知・資本が交わる土壌」を受け継ぎながら、次の日本の成長を担う日本を代表するライフサイエンスの結節点として、日本国内はもとより世界から集まる挑戦を世界へつなぐ発信地となることを目指します。

研究者、スタートアップ、大企業、大学、医療機関、投資家、行政が立場を越えて集い、偶発的な出会いと実践的な協働を通じて、新たな技術やサービスが生まれる。O-Nexus は、閉じた研究施設ではなく、社会と産業をつなぐ「開かれた場所」として設計されています。中之島が担ってきた社会実装の役割を、現代のライフサイエンスで更新し、日本の未来を支える技術と価値を世界へとつなぐ。その結節点となることが、O-Nexus の使命です。

施設概要 (3,100平米)

- ・プライベートオフィス：123個室 (1名～最大15名) *隣接する部屋を連結できるオフィスもあり
- ・コワーキングスペース：25席
- ・会議室14室
- ・フオーンブース13室 (車椅子対応ブース1室含む)

ホームページ

<https://www.o-nexus.jp/>

内覧に関するお問い合わせ先

O-Nexus Sales チーム

E-mail : o-nexus@cic.com

TEL : 070-4323-0829

日本語での内覧申込は[こちら](#)

Click [here](#) to schedule a tour in English